

平成25年度事業報告書

特定非営利活動法人 藤沢ラグビー蹴球倶楽部

1. 事業の成果

(1) 総括

当倶楽部の活動は特定非営利活動に係る事業に限定され、営利活動は行っていない。報酬を受ける役員、給与を支払っているスタッフ共にはいない、純粋な特定非営利活動団体である。特定非営利活動に係る当倶楽部の平成25年度事業活動について、以下の通り報告する。

当倶楽部の事業内容は、定款第5条に規定されているように、1)ラグビースクールの運営に係わる事業、2)ラグビークラブチームの育成・指導に係わる事業、3)ラグビーフットボールの振興・普及に係る事業、4)他の競技団体との協力・交流による競技者の能力向上及び育成に係わる事業、5)その他倶楽部目的を達成するために必要な事業となっている。これらの事業全般につき、平成25年度は会員や関係者の献身的な活動により、下記の通りの活動を行った。

1) ラグビースクールの運営に係わる事業

ラグビースクール事業は、生徒数215名、登録指導員数68名にて運営し、神奈川県下で4番目の生徒数を抱えるラグビースクールである。毎週1回(小5以上は2回)の練習を定期的実施するとともに8月には富士緑の休暇村での合宿を行うなど、ラグビーを通じて青少年の指導・育成を行った。また、秋の県大会には小3～中学までのチームが参加し、県内のラグビーチームとの交流試合を行い、各学年とも所定の成果をあげた。

2) ラグビークラブチームの育成・指導に係わる事業

神奈川県クラブラグビーリーグに所属するトップチーム(湘南プレイボーイズ)は、毎週1回定期的に練習を行い、神奈川県クラブ一部リーグ戦にて春季、秋季大会に参加するとともに、東日本クラブ選手権に参加し所定の成績を収めている。

また、タッチラグビーチーム(湘南グラスボーイズ)も毎週1回定期的な練習を行うとともに、スーパーリーグに継続して参加するなど、活発に活動している。

シニアチームについては、隔週に定期的に練習するとともに、藤沢マスターズ大会等へ継続して参加している。

3) ラグビーフットボールの振興・普及に係る事業

藤沢市ラグビーフットボール協会との協力のもと、藤沢ラグビーフェスティバルや藤沢市民大会への参加、中学生の高校ラグビーフェスティバルの参加等を行ったほか、湘南プレイボーイズは県下の高校ラグビー部に出向き合同練習や技術指導を行った。また、タッチチームが主体となって小中学生大会を行うなど、ラグビーフットボールの振興・普及に努めた。

4) 他の競技団体との協力・交流による競技者の能力向上及び育成に係わる事業

ラグビースクールにおいては、恒例となる藤沢市スポーツ少年団の記録会および辻堂海浜公園を利用する団体による子供駅伝大会へ参加等、他競技団体と共に競技能力の向上を図った。また、県内の他ス

クールを招いての地引網開催、ヤマハララグビースクールへの遠征や全国ライフセービング協会記念事業への参加等、他の競技団体との交流活動を行った。

5) その他倶楽部目的を達成するために必要な事業

地域活動として、ラグビーフェスティバルの開催、砂山市民の家の児童祭りへの参加等を通じ、地域との交流を深めたほか、昨年度から原則として月1回の地域清掃活動を実施している。

また、昨年11月には、地域スポーツの振興を図る一環として、スポーツ吹矢サークル「歩楽吹（ほらふき）倶楽部」を倶楽部の一員として迎え入れ、さらに本年3月16日には「総合型地域スポーツクラブ」としての藤沢市の認定を受ける設立総会を開催し、神奈川県からの承認を得ることとなった。

今後、当倶楽部としては、ラグビーフットボールを中心としながらもその他のスポーツ競技の振興・普及に係る事業にも取り組み、生涯スポーツおよび地域スポーツの発展に貢献していく。

なお、当倶楽部の運営に当たっては、以下の各部会を組織し、倶楽部事業の充実、倶楽部会員の利益拡大につながる諸施策を各委員会が中心となって推進している。

- ①運営企画部会（各施策のとりまとめ、各部会推進事項の相互調整を行う。）
- ②財務部会（財政基盤強化の施策検討、倶楽部資金の有効活用の検討及びこれらの具体的推進を行う。）
- ③地域活動部会（地域貢献ボランティア活動の検討と推進を行う。）
- ④広報部会（HPの運営、倶楽部会員増大を目的としたリクルート活動、倶楽部のPR活動、倶楽部会報誌の計画的発行を行う。）
- ⑤施設部会（クラブハウスの修繕・建替えの検討、グラウンド施設の充実の検討及び推進を行う。）

今後も引き続き、倶楽部会員内外の協力を求め、各部会のメンバーの充実を図り、事業の継続、発展に資するより積極的な運営を行っていく。

(2) 活動概要

1) ラグビースクールの運営に係わる事業

ラグビースクールにおける指導方針については、引き続き3年間継続・固定し、指導実施項目として昨年に引き続き、①共通目標の理解・一元化 ②年間練習計画の立案 ③月次・日々の練習計画のコーチ間における認識の一元化 ④練習成果の把握・レビューの実施 ⑤ミルキー～ミニ～ジュニアのパスウェイの見直し再確認という基本方針を通じて、チームを勝たせる指導を引き続き推進した。そして「シンプル、反復、強弱、理解」をスローガンに掲げ指導に臨んだ。

指導体制は昨年に引き続き、スクール校長の下に、ジュニアクラス（中1、中2～3）、ミニクラス（小3～4、小5～6）、ミルキークラス（幼～小2）の5ユニットを基本に、各クラス統括ヘッドを置くとともに、各学年にヘッドと指導員とを配置し、ユニット内での指導交流や合同練習をできる体制とした。

コーチ養成については、県協会主催のスタートコーチ研修会やレフェリー講習会に積極的に参加し、各々資格取得にチャレンジしている。3月9日には藤沢市協会主催の指導者講習会にも多数の指導員が参加した。

ラグビースクールの活動については、4月6日の入校式以降、毎日曜日の午前中をラグビーの指導・練習日とし、小学5年生以上は土曜日にも練習日とした。その他にも競技能力の向上に向け、5月3日～5日には中学生と小6の春合宿を実施するとともに、7月26日～28日には例年通り中学生が菅平ジャンボリーに参加して各県チームと試合を行った。また、8月16日～19日には恒例の夏合宿を、山梨県富士

緑の休暇村で実施した。夏合宿には小学3年生以上の生徒、指導員、OB、父母が参加し、厳しい練習と、隣り合う学年同士の試合、中学AチームとOBを中心としたチームとの試合等を通じて、ラグーマンとしての大きな成長を遂げるとともに、各学年を超えた班編成による共同生活を体験することにより、上級生は指導力を、下級生は協調性を身につける大きな機会となった。

9月からは小学校3年生以上は秋の県大会に臨み、小学生は11チーム、中学生はAチーム、Bチームと中1チームとで参加した。小学生のうち、小6チームと小3の1チームが優勝を果たし、小4の3チーム小3の2チームが準優勝という成果を残した。中学生は、Aチーム(中3～2)は3位という結果となったほか、1月に近鉄花園ラグビー場等で開催された全国ジュニア・ラグビーフットボール大会に神奈川県スクール選抜として選手6名が参加した。

また、幼児～小2からなるミルクークラスも、県内各スクール主催の交流大会や県協会主催のミルクークラスフェスタに積極的に参加した。

12月21日にはヤマハララグビースクールとの交流10周年を記念して、ヤマハスタジアムへの遠征を行い、小5～中3の生徒、指導員・父母が参加し交流を深めた。

3月1～2日には、昨年に引き続き神奈川県協会主催の第4回ミニラグビーファイナルカップが開催された。これはミニラグビーの集大成である小学校6年生チームを対象に、県内14チーム、県外7チームのラグビースクールの最強チームを決定するトーナメント大会で、当スクール小6チームは初日順当に2勝してカップトーナメントに出場した。当チームは、初戦で今大会の優勝チームと対戦し、残念ながら敗退したが、その後の交流戦では2勝して有終の美を飾った。また、3月9日にはラグビースクール卒業式を行い、第38期生14名の中学3年生が巣立っていった。

2) ラグビークラブチームの育成・指導に係わる事業

神奈川県クラブラグビーリーグに所属するトップチーム(湘南プレイボーイズ)は、ラグビースクールOBを中心としたチームであるが、全国クラブラグビー大会へ出場し、クラブ選手権を制覇することを究極の目標としており、仕事や子育てに追われる一方で週末に練習を重ねている。従来はラグビースクールOBが主体だったが、近時OB以外のラグビー経験者が入ったことによって選手層に厚みが増し、かつチームプレーの徹底とコンビネーションのための意識統一や個々の技術スキルの向上を図ってきた。また、様々なカテゴリーのチームが参加する神奈川セブンスや藤沢セブンスに積極的に参加し、15人制と異なるランニングスキルの向上を図った。大会では、昨年に引き続き1部リーグにて神奈川県クラブ春季、秋季のリーグ戦に参加し、春季リーグでは3位となり、神奈川県第3代表として東日本クラブ選手権へ2度目の出場を果たし、初戦となる1回戦は埼玉県代表(深谷ワイルドスター)と対戦し、攻防を制し2回戦へ進んだ。南関東地区代表選となる2回戦の東京代表(東京六甲クラブ)とは、シーズンゲームの展開の末、敗戦となったが、各県を代表するチームと互角に渡り合える実力がついてきた。また、秋季の神奈川クラブ選手権では優勝で25年度シーズンを締めた。

タッチラグビーチーム(湘南グラスボーイズ)は、神奈川県でのタッチラグビー普及の基礎作りを推進しており、他のチームと交流を図るとともに、指導的な立場も確立してきた。メンバーが日本タッチ協会の勉強会やレフェリー講習会に参加する等、活動が神奈川から日本レベルを視野に置きつつある。活動としては、毎週土曜日に定期練習を行うとともに、各地のタッチ大会に積極的に参加し、本年度も優秀な成績を収めた。前後期のスーパーリーグに継続的に参加し、千葉・東京の各大会にも積極的に参加した。1月の全日本タッチ選手権では、マスターズクラスで優勝するなど、東日本の強豪チームに育ちつつある。

シニアチームは隔週日曜日に練習を行うとともに、春秋の藤沢マスターズや藤沢市民大会、更に海老名他のマスターズ大会に積極的に参加した。40才以上の指導員とタッチメンバーで構成されているが、若手の指導員も参加してメンバーが増加しつつある。

女子チーム（湘南スプリングーズ）の本年度登録選手は0となり、残念ながらチーム編成は出来なかったが、女子連盟行事に積極的に参加した。11月には女子連盟主催のガールズフェスティバル（熊谷ラグビー場、女子小学生も参加）等に参加することにより、各地の女子選手との交流を深めた。

3) ラグビーフットボールの振興・普及に係わる事業

本年度も藤沢市ラグビーフットボール協会、神奈川県ラグビーフットボール協会、関東ラグビーフットボール協会等の主催するラグビーの振興と普及を図る活動に、積極的に参加、協力を行った。

藤沢市協会の主催する第32回藤沢市ラグビーフェスティバルが6月23日に秋葉台グラウンドで、9月8日には第33回藤沢市民大会が秋葉台グラウンドで開催され、当倶楽部からはラグビースクールの全学年が参加した。また、12月には横浜スタジアムで神奈川県ラグビーフットボール協会主催の運動会が開催され、県下全ラグビースクール生徒が参加した。

トップチーム（湘南プレイボーイズ）は、日大藤沢高校及び法政第二高校など高校へ出向き、練習相手や技術指導を行った。オフシーズンである1月から3月においては、積極的に県外のチームと練習試合を行うなど、交流・振興を図った。

タッチラグビーチーム（湘南グラスボーイズ）が主催する大会も増えており、交流大会、湘南大会などを主催し、ラグビーの振興・普及に努めた。

12月には神奈川県ラグビー協会より、当倶楽部から3名が永年にわたるラグビーの普及貢献に関わる功労賞が授与された。

4) 他の競技団体との協力・交流による競技者の能力向上及び育成に係わる事業

ラグビースクールにおいては、6月に中学生が高校ラグビー部フェスティバルへ参加したほか、6月23日に開催された第32回藤沢市ラグビーフェスティバルにヤマハララグビースクールを招いて交流を図った。また、9月にはミルキークラスが近隣のラグビースクールを招いて海岸での合同練習や地引網大会を開催したほか、藤沢市スポーツ少年団の記録会に小5～6年生が参加し、他の競技スポーツ団体とともにスポーツ能力向上を図った。さらに、12月21日にはヤマハララグビースクールとの交流10周年を記念して小5～中3が静岡県磐田市のヤマハスタジアムへ遠征した。その他、11月に開催された全国ライフセービング協会の全日本選手権大会についても当倶楽部理事が参加した。

5) その他スポーツを通じた地域活動

毎年恒例のラグビーフェスティバルを5月12日に開催した。本フェスティバルは、地域住民との交流やラグビーフットボールへの理解を深めることに効果があり、地域住民の参加者も多く、参加者の中から、ラグビースクールへの入校者も出て、ラグビーフットボールの振興普及に対して有効であるため、今後も継続して実施して行く。また、12月には地域交流の一環として辻堂砂山市民の家児童祭に参加し、スクール生徒による幼児への工作指導や焼きそば出店等の活動を行い、辻堂地区住民との交流を深めた。

6) NPO法人としての社会貢献活動や安全対策強化

平成12年にNPO法人化して以降、特定非営利活動法人格を持つラグビーチームとして、社会貢献活動への協力についても模索してきた。その中で平成24年4月からは、原則して月1回に地域の清掃活動を幼児から大人まで各カテゴリー別に実施しており、今後も引き続き活動していく。

また、5年前より、「乳がんの早期発見及び乳がん検診の啓発運動（ピンクリボン運動）」を推進しているNPO法人J. POSHの活動に協賛し、倶楽部としてピンクリボン運動のロゴマークをジャージに貼付する等、活動を継続している。

その他、安全対策の強化として、倶楽部としてAED（半自動除細動器）を購入し、心停止状態発生の緊急事態に備え、活動中常備することとした。

7) 広報活動の強化

倶楽部広報紙「ラグビー藤沢」を発行し、全会員、ラグビースクール生徒と父母、スクールのOB等に配布するとともに、倶楽部のPRや会員への迅速な情報伝達的手段としてホームページを開設している。

ラグビースクール生徒募集活動（リクルート活動）を常時展開し、春先にはリクルートパンフを作成して幼稚園や小学校で配布した。更に中学3年生卒業記念文集を例年通り発行し、卒業生の熱い想いを後輩たちに伝えた。

(3) 本年度会員数、各事業登録者数

以上の活動を支える当倶楽部の会員数は、平成26年3月末時点で下記となっている。

正会員	150名
個人賛助会員	35名
法人会員	1社

また各事業活動の登録者数は下記の通りである。

ラグビースクール：	生徒数	215名
	指導員数	68名
トップチーム	：	34名
タッチチーム	：	44名
シニアチーム	：	40名
女子チーム	：	0名
スポーツ吹矢	：	12名

以上

決 算 報 告 書

平成 2 5 年 4 月 1 日～平成 2 6 年 3 月 3 1 日

収支計算書

財産目録

貸借対照表

計算書類に対する注記

特定非営利活動法人
藤沢ラグビー蹴球倶楽部

収支計算書

(自平成25年4月1日 至平成26年3月31日)

(藤沢ラグビー蹴球倶楽部)
(単位：円)

科 目	金 額	金 額	備 考
(資金収支の部)			
I. 経常収入の部			
1 受取会費・入会金			
正会員受取会費	1,784,000		
賛助会員受取会費	125,000		
受取入会金	0	1,909,000	
2 事業収益			
FRS年会費収益	3,240,750		
夏合宿参加費収益	5,942,600	9,183,350	
3 その他収益			
受取利息	1,647		
受取寄付金	239,645		
雑収入	66,335	307,627	
経常収益計			11,399,977
II. 経常支出の部			
1 事業費			
用具費	808,389		
グラウンド使用料	43,729		
損害保険料	464,780		
夏合宿費用	6,253,830		
対外試合費用	501,500		
トップチーム活動費	335,427		
チーム育成費	322,260		
コーチ育成費	100,500		
タッチ活動費	332,789		
ラグビー祭他地域交流費	201,690		
卒業式諸費	248,482		
広報活動費	78,525		
事業費計		9,691,901	
2 管理費			
水道光熱費	10,029		
借地料	496,422		
通信費	53,700		
事務消耗品費	180,625		
支払手数料	81,352		
交際費	306,392		
雑費	26,671		
管理費計		1,155,191	
経常費用計			10,847,092
III その他の資金収入の部			
1 貯蔵品売却収入			
ラグビーグッズ売却収入	23,900	23,900	
2 貯蔵品払出収入			
ラグビーグッズ用具費振替収入	46,864	46,864	
その他の資金収入合計			70,764
IV その他の資金支出の部			
1 貯蔵品購入支出			
ラグビーグッズ購入支出	65,388	65,388	
2 特定事業預金支出			
クラブハウス修繕引当預金支出	300,000		
50周年記念事業引当預金支出	100,000	400,000	
その他の資金支出合計			465,388
当期収支差額			158,261
前期繰越収支差額			7,164,989
次期繰越収支差額			7,323,250

科 目	金 額		備 考
(正味財産増減の部)			
V 正味財産増加の部			
1 資産増加額			
当期収支差額(再掲)	158,261		
クラブハウス修繕引当預金額	300,000		
50周年記念事業引当預金額	100,000		
用具費から貯蔵品(ラケビークッズ)への振替額	65,388		
資産増加額合計		623,649	
VI 正味財産減少の部			
1 資産減少額			
貯蔵品(ラケビークッズ)売却額	23,900		
貯蔵品(ラケビークッズ)から用具費への振替額	46,864		
資産減少額合計		70,764	
当期正味財産増減額		552,885	
前期繰越正味財産額		10,444,771	
当期正味財産合計		10,997,656	

財 産 目 録

平成26年3月31日現在

(藤沢ラグビー蹴球倶楽部)

(単位：円)

科 目 ・ 摘 要	金 額		
I 資 産 の 部			
1 流 動 資 産			
現 金 預 金			
現 金 現金手許有高	51,866		
普通預金 横浜銀行辻堂支店	731,755		
振替貯金 辻堂西郵便局	1,377,635		
特定支出引当預金 横浜銀行辻堂支店	220,000		
貯蔵品 (販売用ラグビーグッズ)	154,404		
流 動 資 産 合 計		2,535,660	
2 固 定 資 産			
什器備品 (倉庫棚)	1		
什器備品 (救急用AED 1台)	1		
定期預金 横浜銀行藤沢中央支店	5,161,994		
特定支出引当預金 横浜銀行辻堂支店	3,300,000		
固 定 資 産 合 計		8,461,996	
資 産 合 計			10,997,656
II 負 債 の 部			
1 流 動 負 債			
負 債 合 計		0	0
正 味 財 産			10,997,656

貸 借 対 照 表

平成26年3月31日現在

(藤沢ラグビー蹴球倶楽部)

(単位：円)

科 目	金 額		
I 資 産 の 部			
1 流 動 資 産			
現 金 預 金	2,161,256		
貯 蔵 品	154,404		
ジャージー制作費引当預金	220,000		
流 動 資 産 合 計		2,535,660	
2 固 定 資 産			
(1)有形固定資産			
什 器 備 品	2		
(2)投資その他の資産			
定 期 預 金	5,161,994		
倶楽部ハウス修繕費引当預金	3,000,000		
50周年記念事業引当預金	300,000		
投資その他の資産計	8,461,994		
固 定 資 産 合 計		8,461,996	
資 産 合 計			10,997,656
II 負 債 の 部			
1 流 動 負 債			
負 債 合 計		0	0
III 正 味 財 産 の 部			
前期繰越正味財産		10,444,771	
当期正味財産増加額		552,885	
正味財産合計			10,997,656
負債及び正味財産合計			10,997,656

計算書類に対する注記

I. 重要な会計方針

1. 資産の評価基準および評価方法

(1) 有価証券

取得原価法を用いています。

(2) 貯蔵品

個別法による原価法を用いています。

(3) 固定資産の減価償却について

什器備品についてはそれぞれ備忘価額1円を残し、全額費用処理しております。

2. 資金の範囲について

資金の範囲には、現金・預金及び短期金銭債権債務を含めています。

なお、当期末残高は下記Ⅱ. に記載するとおりである。

Ⅱ. 次期繰越収支差額の内容は次のとおりである。

科 目	前期末残高	当期末残高
現金預金	2,004,024	2,161,256
定期預金	5,160,965	5,161,994
次期繰越収支差額	7,164,989	7,323,250